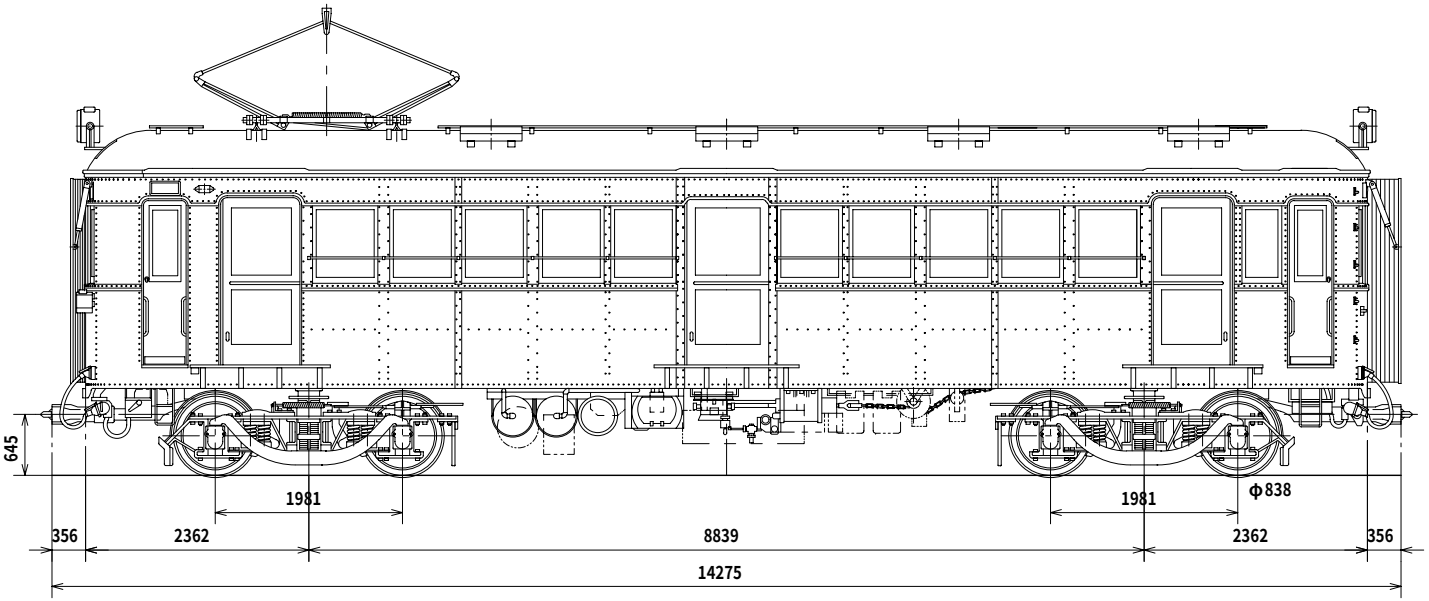
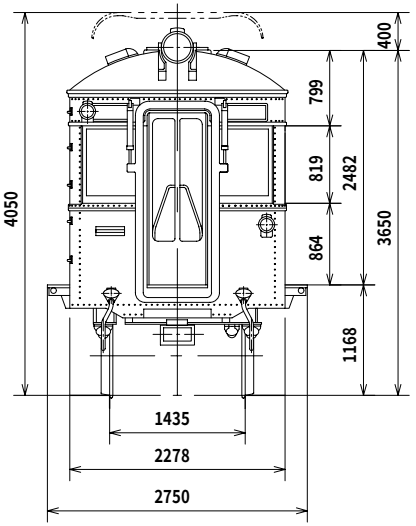
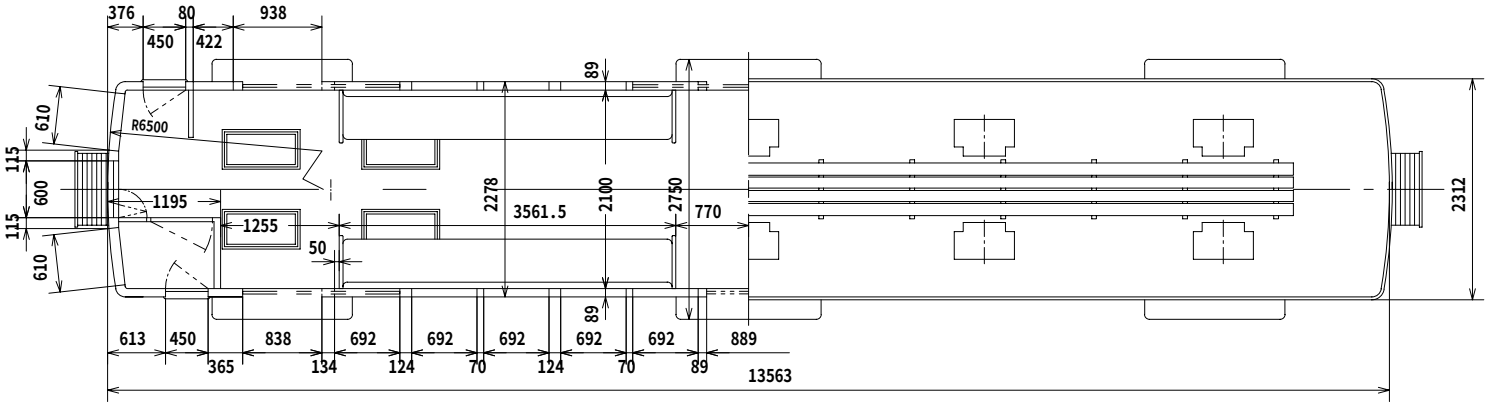
阪神電鉄　801型(復旧車)　形式図







801型の復旧車は、№814の図と比較してもわかるように、
かなり変わったスタイルとなって登場した
特徴ある前面のカーブがフラットに近くなり、乗務員ドア
が付き、その後方に小窓が明けられている
しかし大きな窓をはめた折りたたみ式の貫通ドアーは、
851型など2扉車グループのそれと同じデザインで、
ここでもまた往年の阪神タイプの特色を楽しませてくれる

601型は1924年生まれ、私鉄半鋼製電車の草分けと
いわれる車両
車体は801型に似ているが、台車中心間を短くとった
ので一風変わったスタイルとなっていた
図は戦前の姿で、床下は詳細が不明のため省略した
台車はブリル27MCB2K　　なお№814のパンタやベンチ
レータをこの図と同じにするとより戦前の姿に近くなる